

第7章 生体腎移植における腎提供の既往

わが国において、年間に実施される腎臓移植のほぼ90%が生体腎移植である²³⁾。慢性的なドナー不足のため、高齢や高血圧や糖尿病を持つややリスクの高いドナー（マージナルドナー）からの腎移植も行われている。生体腎移植において、ドナーの安全性は非常に重要である。日本臨床腎移植学会・日本移植学会の報告では6年間で透析導入に至ったものは1または2例と報告されているが、回答率が高くないという問題がある¹⁾。腎移植ドナーの安全性は腎代替療法の選択にも影響を与える。このため、2019年末時点の慢性維持透析患者を対象に、患者自身が過去に腎移植ドナーとして自身の腎臓を提供した既往があるか否かを調査した。そして腎提供既往がある場合は、腎提供を行った暦年について調査した。当該調査は日本透析医学会の統計調査において初めての調査である。

2019年末に慢性維持透析を行っている332,559人のうち、231,140人（69.5%）において腎提供の有無に回答が得られた。この231,140人のうち181人（0.078%）が腎移植ドナーとしての腎提供ありと回答した（補足表49）。ただし21人は腎提供年が導入年以降であったことから、本調査の主旨を誤解して回答された可能性があると考えられた。この21人を除いた160人の患者のうち、腎提供年を回答した患者は104人であった。本調査において透析導入時点は、その暦年と暦月を調べている。しかし、今回調査した腎提供年は暦年しか調べていない。このため、腎提供から透析導入までの期間の算出に関しては、腎提供が行われた暦月を便宜的に全てその年の6月と仮定して計算した。このようにして計算した結果、腎提供から透析導入までの期間の平均は17年2ヵ月（±10年4ヵ月、標準偏差）であった。腎提供から透析導入までが5年未満だったものが13人（12.5%）、5年以上10年未満だったものが19人（18.3%）であった（図50、補足表50）。5年未満が13人であることは、先ほどの日本臨床腎移植学会・日本移植学会の報告²³⁾とは異なっている。しかし、前述のように本調査では181人中21人において本調査の主旨を誤解して回答された可能性があると考えられる。従って、残りの160人の中にも何らかの誤解をして回答された患者が含まれている可能性があり、今回の集計結果の解釈には慎重を要する。

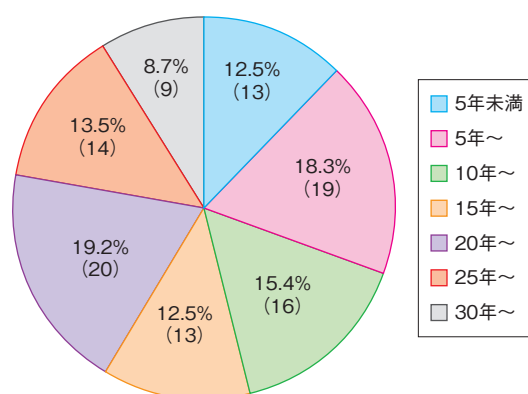


図 50 腎提供ありの患者 腎提供から透析導入までの期間，2019